

第1学年\*組 国語科学習指導案

指導者 齊藤 剛  
H30研修センター長期研修

1 単元名 事実と意見・推測との関係を図示して伝えよう  
教材名「スズメは本当に減っているか」(東京書籍1年)

2 単元の目標

- (1) 科学的な文章に対し関心をもち、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉えながら読もうとする。(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(読むこと)
- (3) 指示する語句と接続する語句の役割に注意して、その働きを捉えることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 生徒観

本学級の生徒に対して、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉える力に関する読みの実態調査(平成30年9月14日実施、第1学年\*組\*人)を行った。調査では、図表から読み取った事実を根拠にした書き手の意見を捉えることができた生徒は\*人であった。以上のことから、事実と意見との関係について叙述を基に捉えることに課題があることが分かった。これまでの説明的な文章の学習では、「序論-本論-結論」と分けた上で、接続語や文末表現を手がかりに意見を探そう指導してきた。これからは、それに加えて事実と意見との関係などを捉え、要旨を把握する学習活動を行う必要があると考える。

(2) 言語活動とその特徴

本単元では、「ニュースキャスターになりきって『スズメは本当に減っているか』を図示して友達に伝えよう」という言語活動を位置付けた。図示とは、情報、データ、知識を文章や図表、矢印などを組み合わせて表現したものである。生徒は、図表から書き手が読み取った事実と、それを根拠に述べられた意見との関係を読み取り、それを短文に書き改めたり矢印などを用いて関係を示したりする必要がある。このことで、「文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること」(C読むことア)を確実に実現できるようにしている。

(3) 教材観

本教材「スズメは本当に減っているか」は、図や表で示された客観的な事実には様々な推測をしていくことで、科学的な見方・思考について述べている文章である。事実に対し、書き手が多角的な視点から証拠をそろえて結論を導いていくので、事実と意見・推測とを読み分け、その関係を捉え、叙述を基に要旨を把握するのに適した教材である。

(4) 指導観

本単元では、まず、図示のグッドモデルを見て、情報を分かりやすく整理するという、図示することの目的と学習活動の見通しをもつ。次に、文章全体の構成を捉えるために、伝える情報を整理する。そして、事実、意見、推測の定義を基に、事実と意見・推測の叙述を読み分ける。さらに、図表と書き手が読み取った事実と意見・推測の関係をワークシートに図示する。最後に、グループに分かれて図示したワークシートを用いて発表した後、事実と意見・推測との関係が正確に捉えられているかを確認し合い、本教材での学習の振り返りを学習シートに記入する。このように、事実と意見・推測との関係を図示して伝える活動を行い、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握する力を育てたい。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・科学的な文章に対し関心をもち、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉えながら読もうとしている。	・事実と意見との関係について叙述を基に捉え要旨を把握している。 C-ア	・指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。 イ-エ

5 単元の指導計画（6時間扱い）

次	時	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準（評価は㊦）
一	1	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習への見通しをもとう。</p> <p>1 台風がここ数年多いという現象を証明するにはどうすればいいかを話し合う。</p> <p>2 一般に使われている図示と教師の図示を見て、図示がどういうものなのかを知る。</p> <p>3 本文を三つのまとまりに分けて、課題と課題に対する書き手の意見に傍線を引く。</p> <p>4 「図表から読み取った事実がいくつあるか」を手がかりに本論を三つの根拠に分けて教科書に境界線を引き、さらに教科書上部に根拠1，根拠2，根拠3と記入する。</p> <p>5 本時の学習を振り返りをし、単元全体の見通しをもつ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ニュースキャスターになりきって「スズメは本当に減っているか」を図示して友達に伝える。</p>	<p>○台風がここ数年多いことを証明する方法を考えるようにすることで、自然現象を科学的に検証することへの関心を高めることができるようにする。</p> <p>○意味が分からない言葉をすぐに調べて確認することができるように、生徒の机の上に国語辞典を用意しておく。</p> <p>○一般に使われている図示と教師が作成した図示の両方を提示することで、複雑な情報を整理したり伝えたりするのに図示が用いられることを理解できるようにする。</p> <p>○序論は課題を出すまとまり、本論は、結論を導くための根拠を挙げるまとまり、結論は課題に対する書き手の意見を述べるまとまりであることを確認し、本文を三つに分けるようにする。</p> <p>○図表から読み取った事実と対応させて本論を三つの根拠（根拠1・根拠2・根拠3）に分けるようにする。</p> <p>[国語への関心・意欲・態度]</p> <p>㊦スズメが減っているかを科学的に検証することについて関心をもち、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉えながら読もうとしている。</p> <p style="text-align: right;">（観察・教科書）</p> <p>[言語についての知識・理解・技能]</p> <p>㊦接続表現や指示語に着目して、本文を大きなまとまりに分けている。</p> <p style="text-align: right;">（観察・教科書）</p>
二	1	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">根拠1を図示してみよう。</p> <p>1 教科書236ページから237ページを読み、事実と意見・推測、根拠の定義を理解し、ノートに記入する。</p> <p>2 表1と図1がそれぞれ何を表しているのかを確認する。</p> <p>3 教科書99ページ14行目から101ページ6行目までにある根拠1を読み、書き手が図表から読み取った事実とそれを根拠にした考えの叙述に傍線を引く。</p> <p>4 傍線を引いた考えの叙述が意見か推測か把握する。</p> <p>5 傍線を引いた事実とそれを根拠にした意見の叙述の間に、関係を示す記号を記入する。</p> <p>6 根拠1を図示する練習をする。</p> <p>7 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○教科書記載の事実、意見、推測、根拠の定義の叙述に傍線を引いてから、ノートに記入するようにする。</p> <p>○表1と図1を見比べて、どちらも自由学園で確認されたスズメの数の記録であることを確認するようにする。</p> <p>○教科書に直接、図表から読み取った事実とそれを根拠にした考えの叙述に傍線を引くようにする。</p> <p>○黒板に叙述や段落の関係を示す記号の一覧と教科書を拡大したものを掲示し、図表から読み取った事実とそれを根拠にした意見・推測に傍線を引いたり記号を記入したりして、生徒に見やすく示す。</p> <p>○ノートに記入した意見と推測の意味を手がかりに、考えの叙述が意見であることに気付き、傍線の右脇に意見とメモするようにする。</p> <p>○事実とそれを根拠にした推測の関係を、叙述を基に記号で示すよう助言する。</p> <p>○教科書の図表をコピーしたものと、根拠1を図示するワークシートを配付し、図示の練習をするようにする。</p> <p>○一般に使われている図示と教師が作成した図示を再掲し、傍線や記号が記入された根拠1を手がかりに、図表と事実と意見の組み合わせを考え意見文を</p>

		<p>図示するようにする。</p> <p>○生徒が作成した根拠1の図示をプロジェクターで紹介する。 [読むこと]</p> <p>㊦根拠1の事実と意見との関係を捉えている。(教科書・ワークシート)</p>
2	<p><b>根拠2を図示してみよう。</b></p> <p>1 図2の折れ線グラフと棒グラフはそれぞれ何を表しているのかを確認する。</p> <p>2 教科書101ページ7行目から103ページ5行目までにある根拠2を読み、図2から書き手が読み取った事実と考えの叙述に傍線を引く。</p> <p>3 前時のノートを見て、傍線を引いた考えの叙述が意見か推測かを捉える。</p> <p>4 傍線を引いた事実とそれを根拠にした推測の叙述の間に、関係を示す記号を記入する。</p> <p>5 図2をコピーしたものを使って根拠2を図示する。</p> <p>6 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○図2の折れ線グラフと棒グラフはそれぞれ何を表しているかを根拠2の文と図の表題を手がかりに確認することができるようにする。</p> <p>○教科書に直接、図2の棒グラフと折れ線グラフからそれぞれ読み取った事実と、それを根拠にした考えに傍線を引くよう助言する。</p> <p>○黒板に叙述や段落がどのような関係であるかを示す記号の一覧と、教科書を拡大したものを掲出し、図表から読み取った事実とそれを根拠にした意見・推測に傍線を引いたり記号を記入したりして、生徒に見やすく示す。</p> <p>○前時のノートを見て意見と推測の意味を確認し、根拠2における考えの叙述は全て推測であると捉え、傍線の脇に推測と記入するようにする。</p> <p>○事実とそれを根拠にした推測の関係を、叙述を基に記号で示すよう助言する。</p> <p>○教科書の図表をコピーしたものと、根拠2を図示するワークシートを配付し、図示するようにする。</p> <p>○生徒が作成した根拠2の図示をプロジェクターで紹介する。 [読むこと]</p> <p>㊦根拠2の事実と推測との関係を捉えている。(発言・ワークシート)</p> <p>[言語に対する知識・理解・技能]</p> <p>㊦接続表現や指示語に注意して読み、文章の理解に生かしている。(発言・ワークシート)</p>
3	<p><b>根拠3を図示してみよう。</b></p> <p>1 図3の二つの日本地図がそれぞれ何を表しているのかを確認する。</p> <p>2 教科書103ページ6行目から105ページ6行目までにある根拠3を音読し、図3から書き手が読み取った事実と考えの叙述に傍線を引く。</p> <p>3 傍線を引いた考えの叙述が意見か推測かを捉える。</p> <p>4 傍線を引いた事実とそれを根拠にした推測の叙述の間に、関係を示す記号を記入する。</p> <p>5 根拠1から根拠3までの図示したワークシートをふりかえり、</p>	<p>○図3の二つの日本地図を見比べて、上が過去の記録、下が新しい記録であることを確認するようにする。</p> <p>○教科書に直接、図3から読み取った事実と、それを根拠にした考えに傍線を引くよう助言する。</p> <p>○根拠3における考えの叙述は全て推測であると捉え、傍線の脇に推測と記入するようにする。</p> <p>○事実とそれを根拠にした推測の関係を、叙述を基に記号で示すよう助言する。</p> <p>○教科書の図表をコピーしたものと、根拠3を図示するワークシートを配付し、図示するようにする。</p> <p>○生徒が作成した根拠3の図示をプロジェクターで紹介する。</p> <p>○図示を発表する授業の時、事実と意見・推測との関係が正確に捉えられているかを確認することを伝え、推測は青、意見は赤で文字をなぞるようにする。 [読むこと]</p> <p>㊦根拠3の事実と推測との関係を捉えて</p>

		<p>推測の部分は青，意見の部分は赤でなぞり，どのように事実と意見・推測は関係しているかを視覚的に捉える。</p> <p>6 本時の学習を振り返り，次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>いる。 (発言・ワークシート) [言語に対する知識・理解・技能] ㊦接続表現や指示語に注意して読み，文章の理解に生かしている。 (発言・ワークシート)</p>
4		<p><b>根拠1・根拠2・根拠3・結論の関係を捉えよう。</b></p> <p>1 根拠1・根拠2・根拠3・結論の関係を表すのに適切な記号は何かを話し合う。</p> <p>2 教材文全体を図示するワークシートに，課題，課題に対する書き手の意見，根拠1・根拠2・根拠3を図示したワークシートを組み合わせて書き記したり貼り付けたりする。</p> <p>3 教師が図示して説明する様子を見て，図示を用いて友達に伝える練習をする。</p> <p>4 本時の学習を振り返り，次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○なぜ，スズメは本当に減っているかを科学的に検証するために3つの根拠を出したのか，という問いを投げかけ，3つの根拠のワークシートに記入された事実と意見・推測と，結論で述べられた書き手の意見を読み直し，それぞれの叙述からその関係を捉えるようにする。</p> <p>○黒板に叙述や段落がどのような関係であるかを示す記号の一覧を掲示し，根拠1・根拠2・根拠3・結論の関係を示す記号を入れるよう助言する。</p> <p>○課題，課題に対する書き手の意見，根拠1・根拠2・根拠3を図示したワークシートを必ず載せて図示するよう助言する。</p> <p>○教師がニュースキャスター役になって，教師が作成した図示を用いて説明した上で，図示を友達に伝える練習するようにする。 [読むこと] ㊦根拠1・根拠2・根拠3の関係を捉え，教材文全体の事実と意見・推測の関係を図示している。 (観察・ワークシート)</p>
三	1	<p><b>ニュースキャスターになりきって「スズメは本当に減っているか」図示して友達に伝えよう。</b></p> <p>1 前時に行った，ニュースキャスターが図示して説明する練習を思い出し，図示を用いて友達に伝える練習をする。</p> <p>2 グループになって，図示を用いて発表し，事実と意見・推測との関係が正確に捉えられているかをグループで確認したり感想を述べ合ったりする。</p> <p>3 本文の要旨を書き，さらに自然現象を科学的に検証することに対する自分の考えをまとめ，グループで発表し合う。</p> <p>4 本単元での学習の振り返りを発表・要旨のワークシートに記入する。</p>	<p>○図示の発表は2分，事実と意見・推測との関係が正確に捉えられているかを確認したり感想を述べ合ったりする時間は2分と伝える。</p> <p>○情報を図示して伝える場面を教師が演技し，「ニュースキャスターになりきって『スズメは本当に減っているか』を図示して友達に伝えよう」活動のイメージをもたせて練習するようにする。</p> <p>○4人組のグループに分かれ，図示を用いた発表，確認を行う。</p> <p>○要旨の意味を伝えた上で，図示したワークシートや本文を読み直しながら要旨をまとめるようにする。</p> <p>○第1時の導入時，自然現象を科学的に検証することに関する意見をまとめた振り返りカードを見た上で，自然現象を科学的に検証することに対する自分の考えをまとめるようにする。</p> <p>○発表・要旨のワークシートに，本単元での学習を通して国語のどのような力が身に付いたか記入するよう伝える。 [読むこと] ㊦要旨を把握することができる。 (発言・ワークシート)</p>

## 6 本時の指導

### (1) 目標

「スズメは本当に減っているか」の図表から書き手が読み取った事実と意見・推測との関係を図示することができる。

### (2) 準備・資料

根拠1（第6～9段落）根拠2（第10～14段落）根拠3（第15～17段落）の図示，教材文全体を図示する台紙，図示のグッドモデル，事実と意見・推測との関係を示す記号一覧，振り返りシート

### (3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点と評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。 (1) 前時の学習を振り返る。 (2) 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>三つの根拠と結論の関係を表すのに適切な記号は何か？序論を含め五つのまとまりを図示しよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時まで、根拠1から根拠3の、図表から読み取った事実と意見・推測との関係を図示したことを想起させる。</li> <li>・本時は、根拠1・根拠2・根拠3・結論の関係を表すのに適切な記号は何かを捉えてから序論（教材文の課題）を含め五つのまとまりを図示することを確認する。</li> </ul>
<p>2 根拠1・根拠2・根拠3・結論（課題に対する書き手の意見）の関係を表すのに、適切な記号は何かを話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠1がスズメが減っている証拠として不十分だから根拠2が入り、根拠2も不十分だから根拠3が述べられるのだから、根拠1+根拠2+根拠3の繋がりができる。</li> <li>・三つの根拠とも結論を導くためのものだから、根拠から結論に向けて矢印を引くべきだ。</li> <li>・「一つ一つは不完全」という叙述から、根拠1+根拠2+根拠3⇨結論でも関係を示すことができるかもしれない。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「スズメは本当に減っているかを科学的に検証するために、なぜ三つの根拠を出したのか」という問いを投げかけ、三つの根拠の関係を、叙述を基に記号で示すことができるようにする。</li> <li>・結論の段落で述べられている、課題に対する書き手の意見「一つ一つは不完全であっても、ここまで証拠がそろえば、スズメは減少している、と結論づけてよいと考えています。」の叙述に注目し、三つの根拠と結論との関係を記号で捉えるようにする。</li> <li>・黒板に事実と意見・推測との関係を示す記号一覧を掲示し、それを参考に三つの根拠と結論の関係を表すのに最も適切な記号を記入するよう助言する。</li> </ul>
<p>3 教材文全体を図示する台紙に序論（教材文の課題）結論、根拠1・根拠2・根拠3の図示を組み合わせて書き記したり貼り付けたりする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・左右か上下に序論と結論を書いて、空いているところに三つの根拠の図示を貼り付けよう。</li> <li>・根拠1・根拠2・根拠3の間には+の記号を付けて関係を示そう。</li> <li>・三つの根拠から結論に向けて矢印か「⇨」などの関係を示す記号を付けよう。</li> <li>・三つの根拠の図示を外側に貼り、中央に結論を書き、根拠の図示から結論に向けて矢印を引いても関係を示せるかもしれない。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が作成した図示を掲示することで教材文の図示のイメージをもたせる。</li> <li>・三つの根拠の図示をそれぞれどこに貼り付けるか迷っている生徒に対しては、教材文の序論と結論を左右または上下に記入して余白を空けて、その間に三つの根拠を貼り付けるよう助言する。</li> <li>・図示する活動が早く終わった生徒に対しては、要旨の意味（文章で取り上げている内容の中心となる事柄や書き手の考えの中心）を伝え、教材文の要旨を図示の台紙の裏にまとめるよう助言する。</li> </ul> <p>⑨教材文全体の事実と意見・推測との関係を図示している。 ㊦（観察・図示）</p>
<p>4 教師が図示を用いて発表の様子を見て、図示を用いて発表する練習をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表は2分、確認し合う時間は2分。</li> <li>・序論・根拠1・根拠2・根拠3・結論の順に、図示を用いて説明する。</li> <li>・先に結論を述べてから、結論に至るまでの三つの根拠を説明してもいい。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した図示を用いた発表を教師自ら示し、次時に行う「ニュースキャスターになりきって『スズメは本当に減っているか』を図示して友達に伝えよう」のイメージをもたせて、図示を用いて発表する練習をするようにする。</li> <li>・なかなか発表する練習に取り組むことができない生徒に対しては、教材文全体の図示を見ながら序論・根拠1・根拠2・根拠3・結論の順で発表するよう助言する。</li> </ul>
<p>5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きなまとまりごとにも関係があり、叙述を基に関係を捉えることが大事である。</li> <li>・大きなまとまりごとの関係を捉えて初めて文章の正確な内容を捉えることができる。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートに、本時の学習を通して身に付いた力を記入するようにする。</li> <li>・数人の生徒を指名し、振り返りシートに書いたことを発表するよう促す。</li> <li>・次時は教材文全体の図示を用いた発表と確認し合う活動を行い、さらに本文全体の要旨を把握することを伝える。</li> </ul>